

新涼書を読む（菊池三溪）

秋は動く梧桐葉落つるの
初

秋動梧桐葉落初 新涼早已到郊墟
半簾斜月清於水 絡緯聲中夜讀書

解説 初秋の夜の読書の楽しみを述べた詩。

語釈 ※新涼＝初秋の涼しさ、爽やかさ。※梧桐＝青桐。

※郊墟＝郊外の野。※絡緯＝こおろぎ。※半簾＝半分おろした簾。

新涼 早く 巳に 郊墟に 到る

半簾の 斜月 水よりも 清く

通釈 秋の気配はすでに青桐の葉の落ちそめるとき感じられ、新涼の気は早くも郊外の野に忍び寄っている。中空から斜めに簾の半分ほどを照らし出した月の光は、水よりも清らかに澄んでいる。聞こえるものはただ、こおろぎの声。それを聞きながら書を読むことは最高の楽しみである。

絡緯 声中 夜書を 読む